

[会員からの話題]

那須と与一の物語

渡 辺 秀 樹

(伊藤忠飼料(株)研究所 〒325-0103 栃木県那須塩原市青木919)

All about SWINE 64, 51-54

那須与一（なすのよいち）を皆さんご存知でしょうか？ 恥ずかしながら、歴史に疎い私は20年以上那須に住んでいて名前くらいしか知りませんでした。今回編集委員会でこのお題をいただき、にわか勉強ですが、与一のこと、与一と那須の関係などを学習することができましたので、ここに皆様にご紹介したいと思います。

(1) 那須与一の物語

那須与一は平安時代末期の武将で、「平家物語」の中で、屋島の戦い（1185年、香川県）において源義経の命により沖に浮かぶ平家方の舟に掲げられた扇の的を射落したという「扇の的」のエピソードで知られています。文部省唱歌にもなっているほどです（1911年、尋常小学唱歌）。さて、ここで疑問がわきませんか？ 「扇の的を射落す」？、戦なののに的宛て？、しかも、この功績で後に与一は源頼朝から5つも荘園を賜ったとされています。これについては、このエピソード場面の詳細を見てみると理解できます。与一はこの時鏑矢（かぶらや）という矢を用いています。鏑矢とは、先端に雁股（かりまた）という二股の矢尻とその基に鏑という笛の役目をする装置がついている矢です。この矢は元々狩猟（獣を音で追い込

んだり、二股の内側についた刃で足などを傷つける目的）や開戦の音の合図（雁股の付いていないものもある）などに用いられるもので、殺傷能力は低いものです。また、祭事や占いなどにも用いられることがあったようです。一方で、平家方の舟も軍船でなく、乗っていて扇をかざしたのも巫女のような姿をした若い女性だったとのこと。以上のような状況から、この場面は源平双方で、的を射落せるものかどうかという「いくさ占い」をしたと解されます。戦の最中になぜ占いという感もありますが、義経に託された与一が見事的に射落すことにより、源氏方は氣勢を上げ、平家方は意気消沈、後の戦果に大いに影響したということのようです。

一方で、この物語にはいくつかのメッセージも込められているようです。与一が弓の名手であることは間違いないことなのですが、実は与一は体格は小柄で、飛距離や威力では与一以上の名手もいたようですが、的が揺れる舟の上であること、また、この日は北風も強く、悪条件の中、動体命中率の高い与一を射手に選んだ源氏方の用兵力（岡田監督並みです）が称えられます。また、与一が、鎌倉や相模、武蔵などの中央出身でなく、北関東の辺縁出身であることにも意味が込められ



写真左：鎗矢の矢先、雁股と鏑
写真右：的となった扇の再現

与一は日の丸を狙ったものの、実際命中したのはそのやや下（白丸）の位置とされている

「那須与一伝承館」より



写真左：那須温泉神社社殿

写真右：殺生石。温泉神社社殿からは歩いて行けます（170 m 程度）。

ており、平家打倒にはこうした地方の武士の支えがあったということも発信している様です。

(2) 那須と那須与一

那須与一については、そもそも那須系図に「与一」の名前はなく、那須宗隆（資隆）とされている書も多いようですが、本当のところは不明の様です。よって、生誕地などは正確には不明ですが、那須にゆかりがあることは事実であり、生誕地として伝わる地も存在します。今回は、那須地区の与一ゆかりの地をいくつかたどってみました。

①那須温泉神社（那須町）

那須岳の麓、登山道の入り口近くにあり、近くには九尾の狐の伝説で知られる「殺生石」や温泉の人気スポット「鹿の湯」があります。与一が尾島の戦いで弓を射る際念じた情景には、故郷那須の景色としてこの神社の社を思い浮かべたとされています。

②那須与一伝承館（道の駅「那須与一の郷」、大田原市）

栃木県大田原市の国道461沿い、南金丸の道の駅「那須与一の郷」には「那須与一伝承館」があります。那須家伝来の宝物を始めとする資料の展示の他、屋島の合戦での扇の的のエピソードを再現したからくり人形による人形劇を鑑賞することができます。14分の上演ですが、琵琶法師による語り始まり、那須与一、源義経、武蔵坊弁慶などの人形がわかりやすくエピソードを伝えます。

この金丸地区（北金丸）には、屋島の戦い（1185年）より後にはありますが、「那須野の狩り（1193年）」が行われた長倉地区（旧長倉村）があります。名前の通り、現在では大学や企業、ゴルフ場などが建てられた丘陵に囲まれた“長い倉”構造になっており（狩りに適した地形になっている）、この地に屋形（ベースキャンプ）を設置し、22日間にわたる那須野の狩りが行われたと伝わっています（「平家物語」, 「吾妻鏡」, 「曾我物語」）。



上写真：那須与一伝承館



上写真：金丸八幡

右写真：那須与一図
「那須与一伝承館」より

この時、源頼朝ら御家人一行を案内したのが、那須光助という人物で、与一のモデルともされている人物になります。

また、長倉の南端、与一の郷の隣には那須神社（金丸八幡）があり、一説には与一が屋島で〈神頼み〉をしたのは当社であったとの言い伝えもあるようです。

ここ大田原市は、那須与一を郷土の誉と称えており、夏には与一まつりが開催される他、街中で与一の像や壁画（球場、公衆トイレ、マンホールの蓋など）が見られたり、与一西瓜などの名産もあります。与一西瓜は、糖度が高く自然本来の甘みと歯ごたえが楽しめるということで、最近ではTV番組でも取り上げられることが多くあります。ぜひ一度お試しください。

③那須神田城跡（那珂川町）

国道 293 号線で宇都宮方面から茨城方面に向かい、国道 294 号線と交わる交差点の一つ手前に「神田城」という交差点があり、右折してすぐのところに那須神田城跡地があります。那須与一が生まれ育ったと言われている城です。那珂川町 HP の説明によると、「平安時代末期に那須氏

の祖、藤原資家によって築かれ、那須氏が、稻積城・高館城に移った後は、廃城となったが、土塁や空堀などの遺構が、良好な形で現存している。」となっていますが、竹や草が生い茂っていて、今一つ整備されていない感じでした。



那賀川町は、旧那須郡小川町と同郡馬頭町が 2005 年に合併して誕生した、栃木県北東部に位置する町で、東は茨城県大子町との県境になります。美術館（いわむらかずお絵本の丘美術館、馬頭広重美術館）やなかがわ水遊園などがあり、大人も子供も楽しめます。観光やなもあり、季節には鮎料理が絶品です（今年は子持ち鮎の塩焼きを食しました!）。

④玄性寺（大田原市）

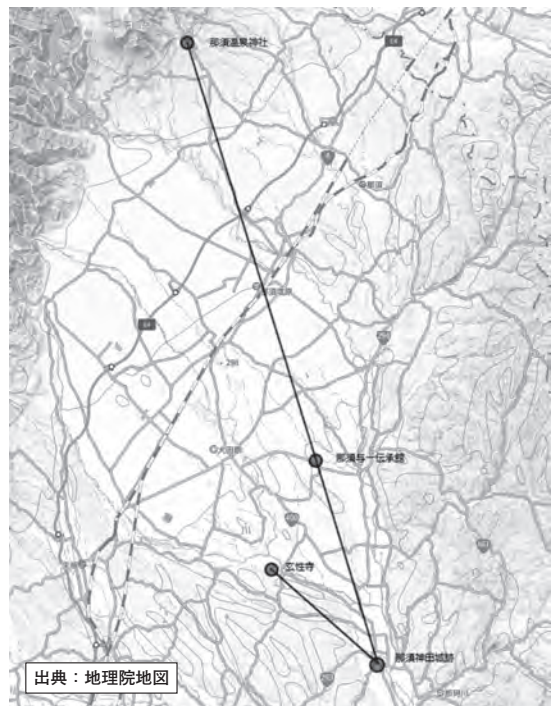
神田城跡地より北西方面に向かうと、直線で 8 km 程度離れた大田原市福原には曹洞宗の寺院「玄性寺」があります。与一をはじめとする那須一族の供養塔が残っています。



近くには、大田原市の名湯「佐久山温泉」もあり、私も今回の取材の締めは温泉につかってきました。

(3) 参考資料

- ・「那須与一の謎を解く」野中哲照著，武蔵野書院
- ・那須与一伝承館
- ・大田原市 HP
- ・那賀川町 HP



上図：今回の取材の足取りです。